



## 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター  
（奈良県保健環境研究センター内）  
**N a r a I D S C**



### ● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 気になる話題～インフルエンザ⑩～
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（2 月月報）
- 病原体（ウイルス）検出情報（2 月）



（調査週） 平成 24 年 第 10 週 3 月 5 日（月）～3 月 11 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況 （奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	インフルエンザ	11.82	↓	↓	↓	↓
2	感染性胃腸炎	6.37	→～↑	→～↑	→～↑	→～↓
3	A 群溶連菌咽頭炎	1.37	→～↑	→～↑	→～↑	↑↑
4	RS ウイルス感染症	0.31	→～↓	→	→	→～↓
4	水痘	0.31	↓	↓	↓	→～↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

※保健所別インフルエンザ定点あたり報告数は、内吉野保健所管内を除き警報レベル継続中です。

[ 警報開始基準値は 30.00、警報終息基準値は 10.00 ]

**県北部地区概況** 報告数は 459 例で、前週報告の 546 例から減少。上位 5 疾患は、①インフルエンザ、②感染性胃腸炎、③A 群溶連菌咽頭炎、④水痘、⑤RS ウイルス感染症＝流行性耳下腺炎の順。感染性胃腸炎の報告数（105 例）は、増加。A 群溶連菌咽頭炎の報告数（31 例）は、やや増加。流行性耳下腺炎の報告数（4 例）は、ほぼ横ばい。RS ウイルス感染症の報告数（4 例）も、ほぼ横ばい。インフルエンザの報告数（399 → 305 例）は、5 週連続で減少。水痘の報告数（5 例）も、減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市 HC 管内；122 例（11.09）、郡山 HC 管内；183 例（11.44）での減少。奈良市 HC および郡山 HC 両管内眼科定点からの報告はなかった。奈良市 HC 管内基幹定点からマイコプラズマ肺炎が 1 例（5～9 歳児）、郡山 HC 管内基幹定点からは細菌性髄膜炎が 1 例（45～49 歳症例）、それぞれ報告された。（村井 記）

**県北部外来状況**：外来患者数は減少してきました。インフルエンザは減少してきましたが、直近の週は A 型が 4 例、B 型が 25 例、特に週後半は B 型ばかりとなっています。今シーズン A と B 型に 2 回罹患した方が 10 例以上（例年は 1-2 例）と目立ちます。インフルエンザの減少と反比例して感染性胃腸炎が増加してきました。乳幼児はウイルス性が主流で、中学生以上は細菌性が多くみられます。38 度以上の発熱は 1 日程度みられるものがありますが、嘔吐は軽症で下痢がやや長い例があります。（矢追 記）

**県中部地区概況** 報告数は、第 9 週の 447 例から第 10 週は 441 例にやや減少した。上位の 5 疾患（第 9 週→第 10 週）は、①インフルエンザ（316 例→293 例）、②感染性胃腸炎（80 例→108 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（18 例→12 例）、④咽頭結膜熱（6 例→6 例）、⑤RS ウイルス感染症（7 例→5 例）＝突発性発疹（2 例→5 例）＝流行性耳下腺炎（4 例→5 例）の順であった。インフルエンザは今年の第 4 週、第 5 週がピークで、その後漸減し、第 10 週も第 9 週より減少した。眼科定点からは、流行性角結膜炎が葛城 HC より 1 例報告があった。基幹定点からの報告はなかった。（徳田 記）

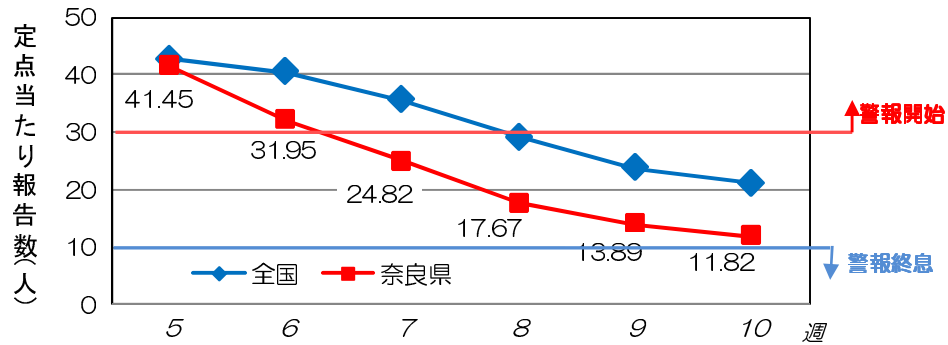
**県中部外来状況**：外来数はインフルエンザの減少に伴い減少傾向。B 型が主となり、近小学校では学級閉鎖もある。今期（当院では）、重症例はなく、タミフル耐性と思われる例もなく、全般に軽症に経過した印象であった。また、予防接種済み例の感染、A、B 両感染例も少なからずあった。感染性胃腸炎では、ロタウイルス陽性例が数例あった。年長児で嘔吐を主とするノロウイルス様例の流行も続いている。全身に小発疹多発、発熱なし、口内疹なしの不明発疹幼児例を散見しウイルス分離提出中。（岡本 記）

**県南部地区概況** 報告数（第 9 週→第 10 週）は 67 例→72 例と推移。報告のあった疾患は、①インフルエンザ（49 例→52 例）、②感染性胃腸炎（11 例→10 例）、③A 群溶連菌咽頭炎（3 例→5 例）、④水痘（2 例→3 例）、⑤RS ウイルス感染症（2 例→2 例）、であった。（柳生 記）

**県南部外来状況**：外来数は横這いないしやや減少。インフルエンザはまだやや多く見られ、殆どが B 型であった。発熱などの症状は軽いものが多いが二峰性の発熱を呈するものもやや多く見られた。嘔吐、下痢の胃腸症状が先行した例もあった。感染性胃腸炎が第 10 週から増加しており、小学高学年のロタや、4 ヶ月児のアデノ腸炎（クリーム色泥状便）などがあった。水痘ややあり、溶連菌咽頭炎が僅か。アデノウイルス感染症もあった。（山本 記）

【気になる話題 ～インフルエンザ⑩～】

奈良県の第10週（3/5～3/11）の定点当たり報告数は11.82人と減少傾向にあります。外来情報にもあるように、流行の主体はA香港型からB型に移行しつつあるとみられます。



※奈良県定点当たり報告数のみ数値を記載

図. インフルエンザ定点当たり報告数の推移

表. 保健所別定点当たり報告数

調査週	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	県合計	全国
第10週 (3/5～3/11)	11.09	11.44	10.18	16.45	5.83	12.00	11.82	21.06
第9週 (2/27～3/4)	14.64	14.88	12.64	16.09	4.67	11.67	13.89	23.70
第8週 (2/20～2/26)	17.55	15.06	18.27	22.36	10.67	19.67	17.67	29.04
第7週 (2/13～2/19)	20.73	21.50	29.27	30.55	20.67	24.33	24.82	35.44
第6週 (2/6～2/12)	31.36	27.56	29.91	41.82	37.67	23.00	31.95	40.34
第5週 (1/30～2/5)	39.73	39.25	35.55	55.45	39.67	31.67	41.45	42.62

：警報レベル

(感染症情報センター 記)

**【月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（2月月報）】**

平成24年2月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数（人）

疾患名/報告月	2月		前月（1月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	6	0.67	7	0.78
性器ヘルペスウイルス感染症	0	0	3	0.33
尖圭コンジローマ	1	0.11	1	0.11
淋菌感染症	6	0.67	6	0.67

・薬剤耐性菌感染症患者数（人）

疾患名/報告月	2月		前月（1月）	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	21	3.50	20	3.33
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2	0.33	6	1.00
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	2	0.33
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

（感染症情報センター 記）

**【病原体（ウイルス）検出情報（平成24年2月）】**

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、2月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成24年2月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
ポリオ	2	1			感染性胃腸炎（1）
ポリオ	3		1		感染性胃腸炎（1）
エコー	9		1		ウイルス感染症疑い（1）
コクサッキー	B3		1		感染性胃腸炎（1）
インフルエンザ	AH3		32	1	インフルエンザ様疾患（30）、 インフルエンザ（3）
インフルエンザ	B		2	2	インフルエンザ（4）
アデノ	2		2		インフルエンザ様疾患（2）

（保健環境研究センター 記）